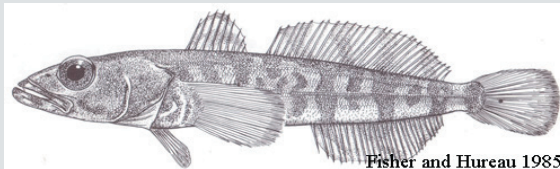


マジェランアイナメ 南極海

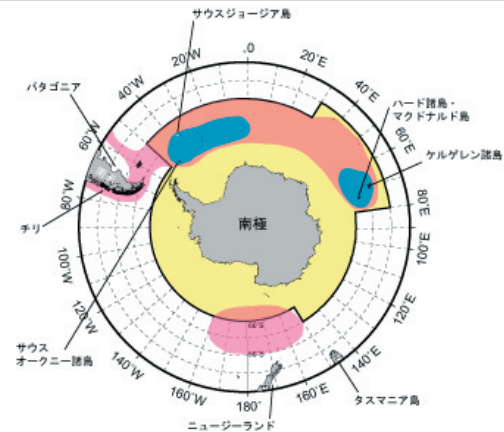
Patagonian Toothfish, *Dissostichus eleginoides*



Fisher and Hureau 1985



CCAMLR HP(C) B. Watkins



CCAMLR 水域 (黄色) と本誌源主分布域 (ピンク)、主漁場 (青)

利用・用途

冷凍切身 (総菜用)、みそ漬けなどの加工品

管理・関係機関

南極海洋生物資源保存委員会 (CCAMLR)

最近一年間の動き

CCAMLR 保存措置に基づく 2006/07 年漁期は 13 の漁業が実施された。メンバー国の EEZ 内では他の漁業が実施された。CCAMLR 水域内のメロ類の報告漁獲量は 16,329 トンで、IUU (違法・無規制・未報告) 漁獲量 3,615 トンを含めると総漁獲量は 19,944 トンとなる。2006/07 年漁期は前年 2005/06 年漁期と比較して 319 トン減少した。CCAMLR 水域外の 2006/07 年漁期漁獲量は 7,978 トンであり、前年漁期より 1,812 トン減少した。IUU 操業による推定漁獲量は、2005//06 年漁期は 3,420 トン、引き続き 2006/07 年漁期 3,615 トンと横ばい状態となっている。

生物学的特性

- 寿命：約 50 年
- 成熟開始年齢：6～9 歳
- 産卵期・産卵場：6～9 月、南極周辺海域の陸棚斜面水域
- 索餌場：南極周辺海域の陸棚斜面水域
- 食性：オキアミ類、魚類、イカ類、甲殻類
- 捕食者：海産哺乳類

漁業の特徴

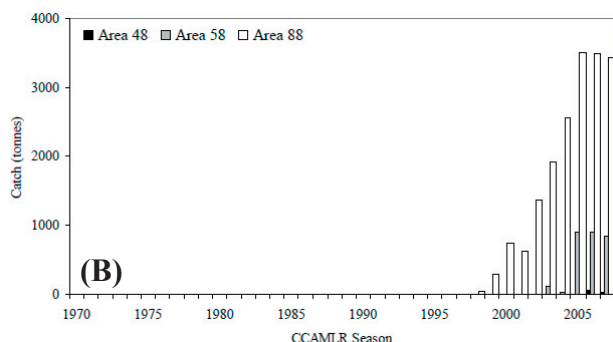
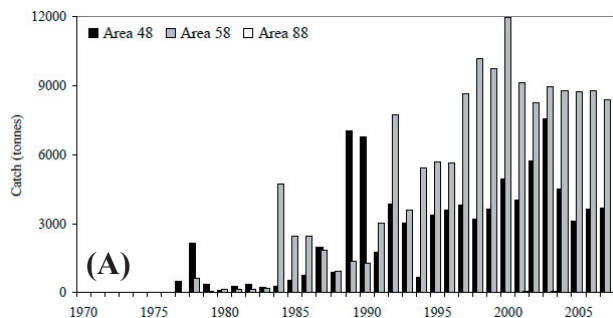
本資源対象の漁業の始まる前、魚類対象のトロール漁業が 1970 年頃からサウスジョージア水域、ケルゲレン諸島水域で行われていた。その漁場は 1977/1978 年以降、サウスオークニー諸島水域の高緯度域へ拡大したが、高い漁獲量は長く続かず、1980 年代初期に急減した。その後、代替としてマジェランアイナメとライギョダマシが対象の底はえ縄漁業がサウスジョージア水域、ケルゲレン諸島水域及び南極大陸周辺の陸棚域で始まった。

漁業資源の動向

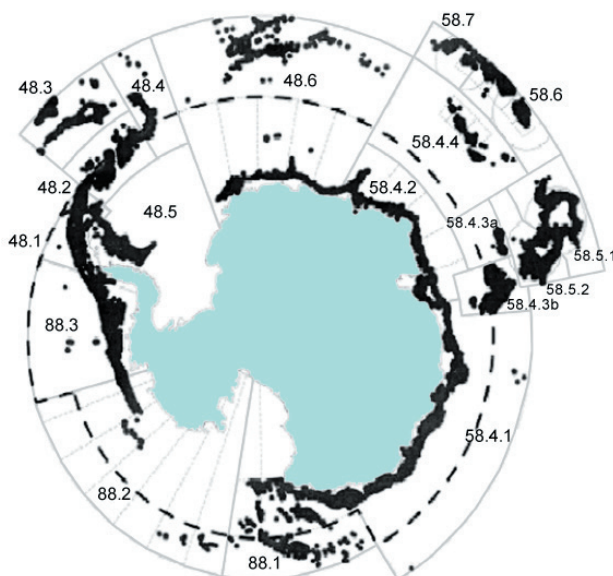
CCAMLR 水域内のメロ類の報告漁獲量は 16,329 (2005/06 年漁期 16,843) トンで、IUU (違法・無規制・未報告) 漁獲量 3,615 (同 3,420) トンを含めると総漁獲量は 19,944 (同 20,263) トンとなる。2006/07 年漁期は前年 2005/06 年漁期と比較して 319 トン減少した。CCAMLR 水域外の 2006/07 年漁期漁獲量は 7,978 (2005/06 年漁期 9,790) トンであり、前年漁期より 1,812 トン減少した。これまで本漁業に対して IUU 操業による推定漁獲量が多く、資源状態に悪影響を及ぼしていることが強く懸念され、管理措置上にも大きな問題を抱えていた。そのため、CCAMLR は IUU 操業に対する強い対策を講じてきた。この成果が現れ、2002/03 年漁期 10,070 トンから 2003/04 年漁期 2,622 トンおよび 2004/05 年漁期は 2,076 トンへと激減した。しかし、2005//06 年漁期は 3,420 トンおよび 2006/07 年漁期 3,615 トンへと増加し横ばい状態となっている。

資源状態

CCAMLR水域全体での資源量調査は行われていないが、本種の主な分布域が陸棚・陸棚斜面域であることから、右下図に示された生息海底深度面積と生物データの組合せで水域ごとに資源量を毎年推定している。そのような推定を積算し、全体の推定資源量としている。



(A) CCAMLR 水域におけるマジェランアイナメの漁獲量の海域別の年変化
 (B) CCAMLR 水域におけるライギョダマシの漁獲量の海域別の年変化



マジェランアイナメ・ライギョダマシの新規・開発漁業の際に義務付けられる小規模調査ユニット枠。影の部分は、両種の主棲息深度 500 ~ 1,800 m の陸棚斜面域。太破線は二種の区分線。北側域：マジェランアイナメ、南側域：ライギョダマシ（CCAMLR 保存管理措置）

マジェランアイナメ（南極海）の資源の現況（要約表）

資源水準	中位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	CCAMLR 水域 1.2 ~ 1.6 万トン 平均：1.3 万トン 世界全体：2.1 ~ 3.4 万トン 平均：2.4 万トン
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	CCAMLR 水域 7 ~ 262 トン 平均：137 トン

管理方針

CCAMLRの科学委員会の魚類資源評価作業部会が、魚類の資源管理のための科学的検討を行っている。検討方法は海区により異なり、漁獲量とCPUEの動向から判断するか、資源動態モデルによるシミュレーションで判断する。その結果、CCAMLRが管理措置として取り決める。

資源評価まとめ

- CCAMLR 科学委員会の魚類資源評価作業部会で検討を実施
- 資源は中位水準、横ばい

資源管理方針まとめ

- CCAMLR が毎年の漁獲報告データに応じて、その都度、漁獲制限量を算出
- 漁獲制限の取り決めのない領海区では禁漁措置